

北見市常呂川河口遺跡から出土した アイヌ文化期の木質遺物の樹種同定

花里 貴志¹, 守屋 豊人², 渋井 宏美^{1*}, 渡邊 陽子³, 武田 修^{4**}, 佐野 雄三³

Identification of wooden remains in the Ainu Culture Period excavated at the
Tokorogawa Estuary Site, Kitami, Hokkaido, Japan

by

HANASATO Takashi¹, MORIYA Toyohito², SHIBUI Hiromi^{1*}, WATANABE Yoko³,
TAKEDA Osamu^{4**}, SANNO Yuzou³

要 旨

北海道東部の遺跡より出土した木質遺物の樹種同定調査例は限られ、とくにアイヌ文化期の知見は乏しい。そこで、北見市常呂川河口遺跡から出土したアイヌ文化期の木質遺物 372 点について樹種同定を行い、その木材利用の特徴について調べた。計 23 の植物種・群が同定された。同定を行った木質遺物の多く (372 点中 276 点) は、その形態的特徴に基づいて住居や他の建造物で使用される「土木・建築部材」に分類された。「土木・建築部材」について近隣の別年代の遺跡や同年代の道内別地域の遺跡と比較すると、ヤナギ属が際立って多かった (約 40%)。また、近隣の別年代の遺跡と比べると、針葉樹類が少ない (約 4%) ことも特徴であった。当時の北海道東部には天然分布しないと考えられるブナ属、カラマツ属が検出された。これらは交易など人間活動により持ち込まれたものと推察された。杭状の丸材について径級別に樹種構成を調べたところ、直径 5cm 未満の丸材においてはヤナギ属が (43%)、直径 5cm 以上の丸材においてはコナラ属が (40%) 最も多く占めた。杭状試料の先端部の加工法には樹種および径級による特徴が認められた。

キーワード : 木質遺物、樹種同定、木材利用、常呂川河口遺跡、アイヌ文化期

2016 年 7 月 25 日受付, Received July 25, 2016

2018 年 10 月 22 日受理, Accepted October 22, 2018

1. 北海道大学大学院農学院環境資源学専攻森林資源科学講座樹木生物学分野
Laboratory of Woody Plant Biology, Research Group of Forest Resource Science, Division of Environmental Resources, Graduate School of Agriculture, Hokkaido University
2. 北海道大学埋蔵文化財調査センター Archaeological Research Center, Hokkaido University
3. 北海道大学大学院農学研究院基盤研究部門森林科学分野樹木生物学研究室
Laboratory of Woody Plant Biology, Research Group of Forest Resource Science, Division of Environmental Resources, Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University
4. 北見市教育委員会 Board of Education, Kitami City

*. 現、北海道総合研究機構森林研究本部林産試験場

Current address: Hokkaido Research Organization, Forest Products Research Institute

** . 現、シン技術コンサル (株) Current address: Shin Engineering Consultants Co. Ltd